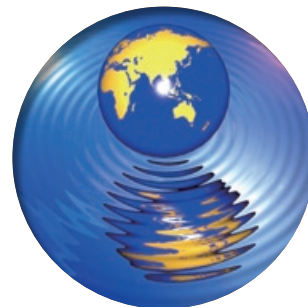
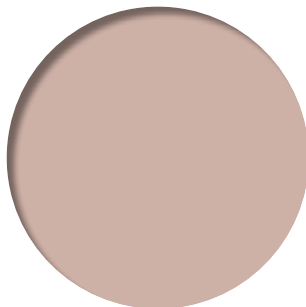
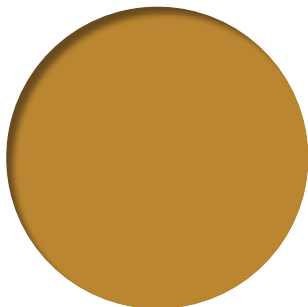
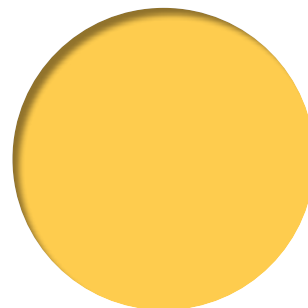
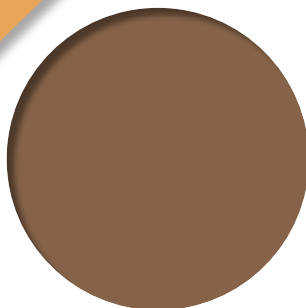
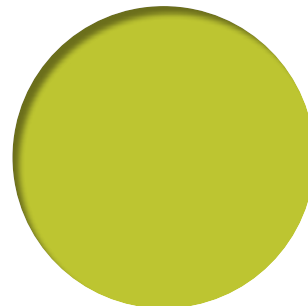
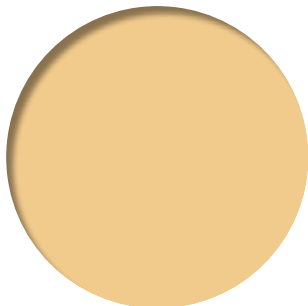




Contents

私たちってこんな会社です。……………	1
連結財務ハイライト……………	2
トップインタビュー……………	3
セグメント別の概況……………	5
トピックス……………	7
アンケート結果のご報告……………	8
連結財務諸表……………	9
会社の概要・株式の状況……………	10

第63期 中間期 株主の皆様へ

平成25年4月1日▶平成25年9月30日

私たちってこんな会社です。

高干渉取引は、産業と社会に新しい価値を提供します。

当社の提供する製品は、街やオフィス、家庭など、皆様の身近なところで広く活用されています。

家庭

PC・デジカメ・スマートフォン(半導体・電子部品)



図書館

RFID図書館管理システム



ショッピングセンター

商品監視システム



Pickup !

オフィス

入退室管理システム



ネットワークセキュリティシステム

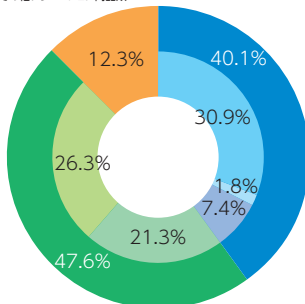
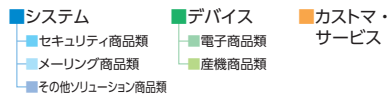


銀行

ATM: 現金自動預け払い機(スライドレール)



セグメント別売上構成比



セグメント別：主要取扱い品目と売上構成比

システム

セキュリティ商品類

商品監視システム、映像監視システム、入退室管理システム、防火システムなど

メーリング商品類

メールインサーティングシステム、アドレッシング用インクジェットシステム、ラベリングシステムなど

その他ソリューション商品類

RFID図書館管理システム、RFID物流・在庫管理システム、ストアマネジメント関連システム、ネットワークセキュリティ関連機器など

デバイス

電子商品類

半導体、シリコンマイク、各種センサーなど

産機商品類

スライドレール、ガススプリング、昇降システムなど

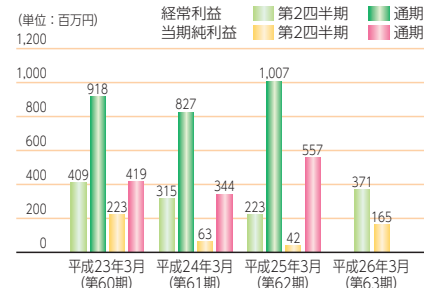
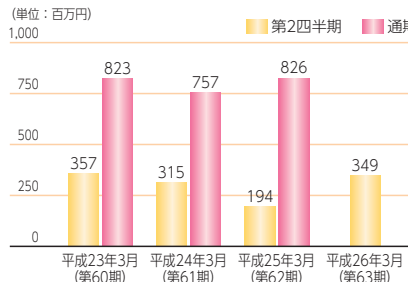
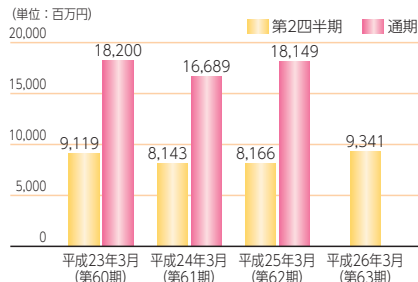
カスタマ・サービス

システム機器の設置・保守、コンサルティング及びシステム設計、システム運用受託など

売上高 93億41百万円
(前年同期比 $\uparrow$ 14.4%増)

営業利益 3億49百万円
(前年同期比 $\uparrow$ 79.2%増)

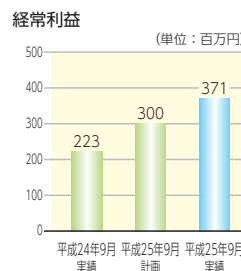
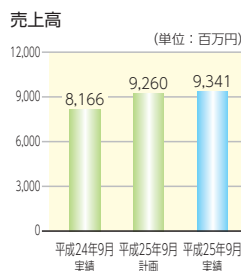
経常利益 3億71百万円
(前年同期比 $\uparrow$ 65.9%増)
四半期純利益 1億65百万円
(前年同期比 $\uparrow$ 289.5%増)



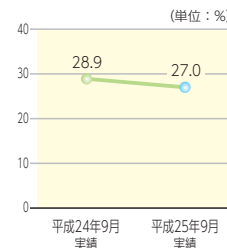
平成26年3月期 第2四半期決算のポイント

- 単体業績が牽引し、増収増益を達成、利益計画もクリア
 - ・ 全セグメントで増収増益達成
 - ・ 円安による仕入コスト増加により売上粗利率が低下するも、売上高の増加と販売費及び一般管理費の抑制により増益

売上高・経常利益の前年同期及び計画との比較



売上総利益(粗利益)率の推移



通期見通しのポイント

- 事業方針「独自の付加価値創出とグローバルビジネスの拡大」を推進
 - ・ システム: セキュリティ商品類は付加価値強化による国内市場の拡大と海外事業の強化、その他ソリューション商品類はRFID等の市場形成・拡大を図る
 - ・ デバイス: 電子商品類は産業機器市場での拡販による成長トレンドへの転換、産機商品類は国内新規市場の開拓等により拡大を図る

売上高	19,700百万円	(前期比 8.5%増)
営業利益	1,020百万円	(前期比 23.4%増)
経常利益	1,050百万円	(前期比 4.3%増)
当期純利益	560百万円	(前期比 0.5%増)



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第63期中間期(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)の事業活動の概況をご報告申し上げます。

平成25年12月

代表取締役社長 戸田 秀雄

Q

上期の業績と下期の抱負を聞かせてください。

今年度は、引き続き「独自の付加価値創出とグローバルビジネスの拡大」を事業方針に掲げ、その実現に向けた活動に取り組んでいます。そのような中、上期の売上高は、デバイスセグメントの産機商品類が好調を維持していることに加え、システムセグメントのセキュリティ商品類やその他ソリューション商品類の販売も上向いたことから、前年同期比14.4%増の93億41百万円の増収となりました。

損益につきましては、円安による仕入コストの増加により売上総利益率が低下したものの、売上高の増加と販売費及び一般管理費の抑制により、営業利益、経常利益ともに前年同期を上回り、四半期純利益も前年同期比289.5%増の1億65百万円と、増益で終わることができました。

商品別に内訳を見ると、遊技市場向け機構部品の

販売増加や、ATM(現金自動預け払い機)の新機種への複合提案の成功等により、産機商品類が売上高を大きく牽引しています。同じくデバイスセグメントの電子商品類は、デジタル家電向けシリコンマイクの販売が堅調に推移したことから、前年同期比では微増となりましたが、ターゲットとしている産業機器市場へのアナログ商品の拡販が依然として遅れているため、早期に挽回すべく活動を強化してまいります。

システムセグメントのセキュリティ商品類では、GMS(総合スーパーマーケット)やドラッグストア向けの商品監視システムやIP(ネットワーク)カメラの販売が好調に推移する他、タイ現地法人のFire(防火設備)、セキュリティ事業も伸長しています。その他ソリューション商品類では、マイティカードの物流企業向けRFIDタグの販売及び各種パートナー向けRFID機器販売が増加しています。

下期も全商品類で、新しい市場、新しいお客様、新しい提案等の新規活動を強化し、当社ならではの付加価値を創り出していくことに注力するとともに、活動フィールドの拡大にもつながるグローバルビジネスをさらに推進し、年度計画達成に向けてグループ全社一丸となって邁進してまいります。

Q

買収した2社の事業状況はいかがですか。

平成23年にTakachiho Fire, Security & Services (Thailand) (以下TKタイ)が、平成24年にマイティカード株式会社がそれぞれ当社グループに加わりました。上期は両社合わせて前年同期比57%増の売上高を計上しました。

タイの市場環境は、今年度は多少落ち着いていますが、昨年度の洪水からの復興需要はまだまだ経済を活性化させています。さらにミャンマー等の近隣諸国の開発にもタイが中心的役割を果たすことも多く、今後もさらなる成長が見込まれています。このような経済環境にあるTKタイには、大規模ビル・工場向けFire(防火設備)部門、オフィス向け入退室管理システム部門、小売店向け商品監視システム部門の3部門があります。Fire部門は、当社グループでは唯一、火災報知機やスプリンクラー等を扱っています。オフィス向け入退室管理システム部門は日本と同様、IPカメラが好調に推移、また小売店向け商品監視システム部門は特に日系企業の店舗展開に合わせて販売を増加させています。3部門とも、これまでは現地企業、米国系企業と

の取引が大半でしたが、買収によって当社グループに加わったことにより、従来からの強みに加え、日系企業との取引も増えてきています。好調な市況との相乗効果も期待できます。

一方、マイティカードは、これまでもご紹介してまいりましたが、RFIDシステムを主力商品としてビジネスを展開しています。RFIDとは自動認識技術の一つで、物品の情報を記憶する半導体チップと通信用のタグを組み込んだタグを物品に取り付け、それを電波で読み取ることににより、一点ずつではなく一度に複数の物品情報を自動的に認識できるしくみです。バーコードの次世代システムと言われており、タグや読み取り機器の低価格化・多様化により、様々な分野での活用が始まっています。マイティカードでは、物流資材管理用タグの販売増加が上期好調の要因でしたが、一度に読み取れる利点を活かしてアパレル業界で棚卸やレジの効率化のために使用されることも増えてきました。アパレル業界はRFIDの導入に積極的であり、市場の拡大が見込まれています。

両社とも買収から1～2年経ち、日本で構築したセキュリティシステムをタイで展開したり、商品監視システムのお客様にRFIDシステムを紹介する等、当社グループ会社間のコラボレーションや人材交流も活発になってきました。また、下期にはタイに数ヶ月間駐在する社員研修制度も始まります。

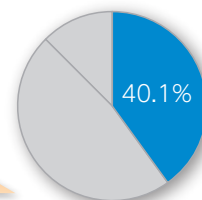
今後も当社の事業方針「独自の付加価値創出とグローバルビジネスの拡大」の推進に向けて、積極的な戦略の下、グループ内の連携強化を図ってまいります。

システム：セキュリティ商品類やその他ソリューション商品類の好調により増収増益

デバイス：電子商品類・産機商品類とも増収増益

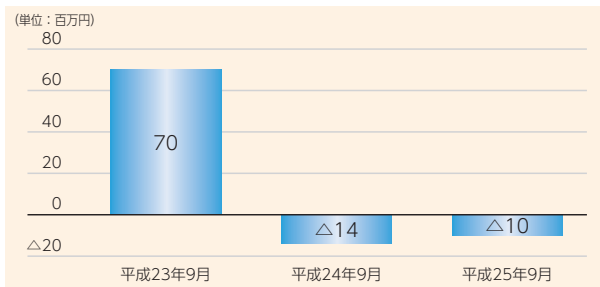
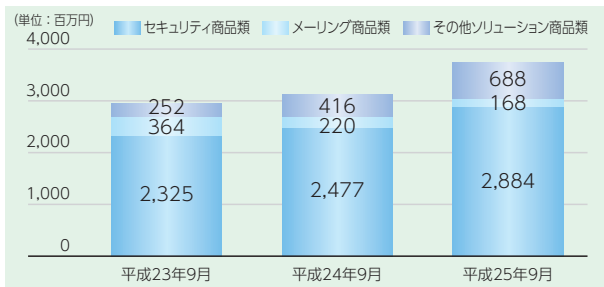
カスタマ・サービス：システムセグメントの販売好調に伴い増収増益

システム 売上高は前年同期比20.1%増の37億41百万円、営業利益は円安の影響やのれん償却により10百万円の損失になったものの前年同期比では3百万円の増益



売上高
20.1%増

営業利益
3.0百万円増



セキュリティ商品類 (前年同期比16.5%増)

GMS(総合スーパーマーケット)やドラッグストア向けの商品監視システムやIP(ネットワーク)カメラが好調に推移した他、TKタイの販売貢献により、売上高は前年同期比16.5%増の28億84百万円となりました。



レーシング商品類 (前年同期比23.6%減)

主力商品の封入封緘機の大型案件を計上するもののその他製品が伸長せず、売上高は前年同期比23.6%減の1億68百万円となりました。



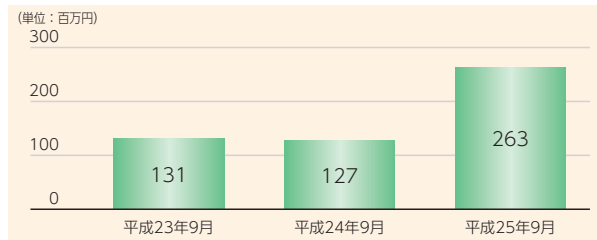
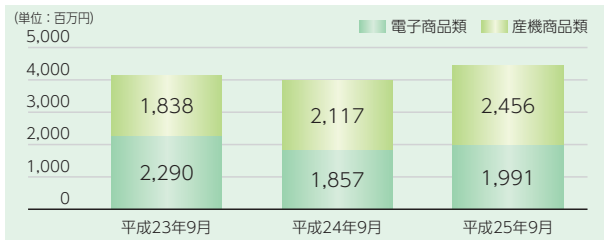
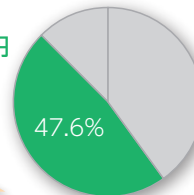
その他ソリューション商品類(前年同期比65.1%増)

マイティカードによる物流企業向けRFIDタグの販売増加等により、売上高は前年同期比65.1%増の6億88百万円となりました。

デバイス 売上高は前年同期比11.9%増の44億47百万円、営業利益は前年同期比107.1%増の2億63百万円

売上高
11.9%増

営業利益
107.1%増



電子商品類(前年同期比7.2%増)

引き続きデジタル家電向けシリコンマイクの販売が堅調に推移し、売上高は前年同期比7.2%増の19億91百万円となりました。



産機商品類(前年同期比16.0%増)

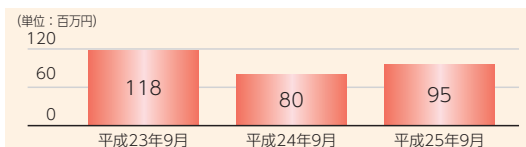
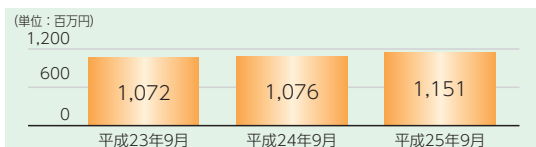
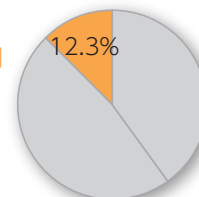
遊技市場向け機構部品の販売が大幅に増加した他、主力のATM(現金自動預け払い機)向け機構部品が堅調に推移し、売上高は前年同期比16.0%増の24億56百万円となりました。



カスタム・サービス 売上高は前年同期比6.9%増の11億51百万円、営業利益は前年同期比18.7%増の95百万円

売上高
6.9%増

営業利益
18.7%増



システムセグメントの販売好調に牽引され、売上高は前年同期比6.9%増の11億51百万円となりました。

日立オムロンターミナルソリューションズ(株)様のATMに複数の機構部品が採用 ～従来のスライドレールに加え電子錠も～

ATM(現金自動預け払い機)を利用されていますか? 日本では銀行や郵便局、またコンビニエンスストアにも必ず設置されているほど、ATMは日常生活に溶け込んでいます。

当社産機商品類の主力商品であるスライドレールは、長年に亘ってこのATMに採用されており、主要メーカーである日立オムロンターミナルソリューションズ(株)様との取引は、約30年に及びます。

ATMの内部は、紙幣を入れる部分や利用明細書用紙を入れる部分等、用途によって多くのユニットに分けられています。スライドレールはそれらのユニットの出し入れに使われており、ATMの小型化や高性能化に伴って、スライドレールもそれに

見合う最新のものを常に求められ、応えてきました。

日立オムロンターミナルソリューションズ(株)様は積極的に海外展開を図り、今や世界各国の金融機関へATMを提供しています。海外では、日本とは違い、国ごとに環境が大きく変わりますが、それぞれの国や地域に応じた製品・サービスを提供するきめ細かな対応でシェアを伸ばしています。

そのような状況の中、当社は日立オムロンターミナルソリューションズ(株)様が海外で事業を展開するにあたりスライドレールの他にご提供できる機構部品はないかと考え、電子錠の取り扱いを平成23年に開始しました。ATM関連犯罪が頻発する海外で安全にATMを使っていただけるよう検討し、対応した結果、日立オムロンターミナルソリューションズ(株)様から価値を認めていただき、海外向けATMにスライドレールと合わせて初めて採用いただくことができました。

海外でのATMは今後も普及が続くと見込まれ、今回の採用によって売上拡大が期待できます。また、引き続き、事業方針にもある「独自の付加価値創出」の実現に向け、お客様の製品の価値を高める商品を数多く提案していくことに注力してまいります。



日立オムロンターミナルソリューションズ(株)様製ATM

アンケート結果のご報告

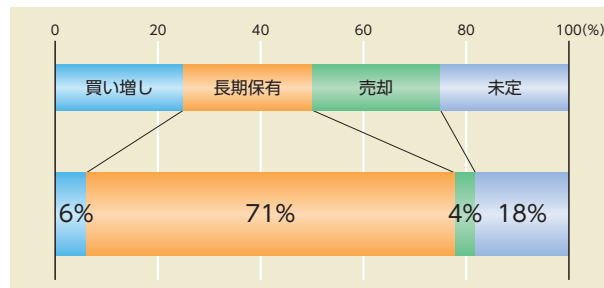
「第62期株主の皆様へ」で実施させていただきましたアンケートにつきましては、全株主数の3.3%にあたる434名の株主の皆様よりご回答をいただきました。多くのご意見・ご感想をいただきましたことを心より御礼申し上げます。

お寄せいただきましたご意見・ご感想は、今後の経営・IR活動に活かしてまいります。

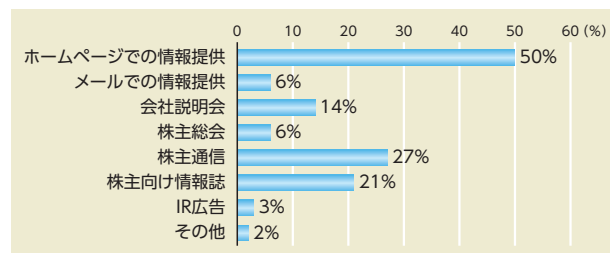
アンケート結果 (抜粋)

Q 当社の株式について、どのような方針をお持ちですか。

保有方針については、前回(第61期)実績と比較して特に大きな変化はなく、有効回答の8割弱の株主様より「買い増し」／「長期保有」との回答をいただきました。



Q 当社のIR活動について、特に充実を希望することは何ですか。



当社IR活動について、多くの株主様が「ホームページでの情報提供」の充実を望んでいらっしゃいました。より充実したタイムリーな情報提供を図ってまいります。

株主様からのご意見のご紹介

- 安定配当。株主優待を継続してほしい。
- 取り扱い商品・サービスを分かりやすく、もっと紹介してほしい。
- 「株主の皆様へ」は、図表やグラフを多用、文字のサイズの拡大等をして見やすくしてほしい。
- 中長期の事業方針を提示して、企業成長して欲しい。

決算説明会資料の掲載

当社では、以前よりホームページ上に決算説明会(中間期・期末の年2回実施)の資料を掲載しており、セグメントやプロダクト別の業績、次期の見通しなど、当事業内容について数値にて詳細に紹介しています。是非ご覧ください。

http://www.takachiho-kk.co.jp/ir/library_material.html



引き続き当社は、継続的かつ安定的な配当水準を保つことを配当政策の基本とし、当社株式を中長期的に保有していただけるよう、経営の効率化を図るとともに充実した情報提供をもって透明性、健全性の維持・向上に努めてまいります。

また、本誌3～4ページのトップインタビューは、文字サイズを大きくしました。今後とも見やすさの改善を継続してまいります。

■ 四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期 平成25年9月30日	前 期 平成25年3月31日
(資産の部)		
流動資産	16,081	15,558
固定資産	2,941	3,040
有形固定資産	482	496
無形固定資産	1,028	1,177
投資その他の資産	1,429	1,366
資産合計	19,022	18,599
(負債の部)		
流動負債	4,224	3,891
固定負債	818	840
負債合計	5,043	4,732
(純資産の部)		
株主資本	13,730	13,682
資本金	1,193	1,193
資本剰余金	1,156	1,156
利益剰余金	11,678	11,630
自己株式	△298	△298
その他の包括利益累計額	178	118
新株予約権	26	23
少数株主持分	43	42
純資産合計	13,979	13,867
負債純資産合計	19,022	18,599

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ 四半期連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期 平成25年4月 1 日～ 平成25年9月30日	前第2四半期 平成24年4月 1 日～ 平成24年9月30日
売上高	9,341	8,166
売上原価	6,822	5,807
売上総利益	2,518	2,358
販売費及び一般管理費	2,168	2,163
営業利益	349	194
営業外収益	23	30
営業外費用	1	1
経常利益	371	223
特別利益	2	—
特別損失	—	60
税金等調整前四半期純利益	373	163
法人税、住民税及び事業税	180	79
法人税等調整額	23	42
法人税等合計	204	121
少数株主損益調整前四半期純利益	169	42
少数株主利益又は少数株主損失(△)	3	△0
四半期純利益	165	42

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期 平成25年4月 1 日～ 平成25年9月30日	前第2四半期 平成24年4月 1 日～ 平成24年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	866	143
投資活動によるキャッシュ・フロー	△98	256
財務活動によるキャッシュ・フロー	△122	△168
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	△3
現金及び現金同等物の増減額	658	226
現金及び現金同等物の期首残高	6,507	5,792
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,165	6,019

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ 会社概要

設 立	昭和27年3月
資 本 金	11億9,381万円
従 業 員 数	244名 (単体)、471名 (連結)
取引金融機関	みずほ銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行
主 要 業 務	セキュリティシステム、情報ネットワークシステム、ICタグ応用システム、半導体及び機構部品等の輸出入及び販売・据付・保守サービス並びにシステム設計・システム運用受託等サービス
ホームページ	http://www.takachiho-kk.co.jp/

■ 取締役・監査役

代表取締役社長兼社長執行役員	戸 田 秀 雄
取 締 役 兼 執 行 役 員	小 原 敬 一
取 締 役 兼 執 行 役 員	広 木 邦 昭
取 締 役 兼 執 行 役 員	平 山 英 樹
取 締 役	田 代 守 彦 ※
取 締 役	早 野 勉 ※
常 勤 監 査 役	武 智 良 泰
監 査 役	柴 崎 伸 雄 ※※
監 査 役	小 海 正 勝 ※※
監 査 役	石 原 良 一 ※※

(注) ※は社外取締役です。※※は社外監査役です。

■ 執行役員

執 行 役 員	市 川 陽 三
執 行 役 員	横 戸 憲 一
執 行 役 員	平 田 嘉 昭
執 行 役 員	高 山 博 喜
執 行 役 員	赤 堀 寛 人

発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	10,140,300株
株 主 数	11,586名

■ 大株主

株 主 名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社マースエンジニアリング	804,000	8.21
セ コ ム 株 式 会 社	450,000	4.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	423,900	4.32
日立オートモティブシステムズ株式会社	380,000	3.88
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	300,600	3.07
栃 本 京 子	300,000	3.06
山 村 秀 彦	268,500	2.74
株式会社マーストークンソリューション	265,000	2.70
高千穂交易従業員持株会	224,090	2.28
明治安田生命保険相互会社	216,000	2.20

(注) 当社は、自己株式349,717株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式数を控除して算出し、小数第3位以下を切捨てて表示しております。

■ 株式分布状況



- 金融機関
28名 0.25%
- 金融商品取引業者
27名 0.23%
- その他法人
57名 0.49%
- 外国法人等
46名 0.40%
- 個人その他
11,428名 98.63%

- 金融機関
1,830,200株 18.06%
- 金融商品取引業者
182,394株 1.80%
- その他法人
2,971,072株 29.30%
- 外国法人等
77,650株 0.77%
- 個人その他
5,078,984株 50.07%

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 期末配当金 3月31日
受領株主確定日
- 中間配当金 9月30日
受領株主確定日
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711
(通話料無料)

【株式に関するお手続き用紙のご請求について】

特別口座に記録された株式に関するお手続き用紙（届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等）のご請求につきましては、以下のお電話並びにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

TEL：0120-244-479（通話料無料）

インターネットアドレス：<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部
- 公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL
<http://www.takachiho-kk.co.jp/>
(ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。)
- 1単元の株式数 100株
- 株主優待制度 毎年3月末時点で100株以上保有している株主様に一律お米券3kg分を贈呈



〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目2番8号

TEL 03-3355-1111 (代)

URL <http://www.takachiho-kk.co.jp/>

